

PATEK PHILIPPE

パテックフィリップ

右のモデルは、1950年代製のパテックフィリップのRef.3411。立体的なバーインデックス、鋭いファイブ針というパテック王道のスタイルに仕上げられた文字盤を、ベセル幅の広いケースが際立たせている。高級感あふれる均整のとれたデザインが魅力的だ。

■Ref.3411、K18YG（35mm径）、手巻き（Cal.275C）、1950年代製、154万円

左のモデルは、1950年代製のパテックフィリップ、Ref.2501。ケースにリユースが納まる特選的な蓋証が採用されている。エッジの効いたケースラインを堪能することができる。要素の少ない2針モデルは文字盤が同定することも多いが、ベセルと統一感のある幅広いフォントデザイン、エナメル仕上げされた立体感のあるローマン＆バーインデックスにより、絶妙なデザインバランスを実現している。

■Ref.2501、K18YG（34mm径）、手巻き（Cal.10-200）、1950年代製、176万円

絶妙なバランスと上質感を
備えたオールドパテックの秀作

ビギナーから愛好家まで幅広い支持を得る

名店がすすめるアンティーク [シェルマン]

様々な書画園により選り抜いたオールドパテックの名品を取り扱う銀座の名店「シェルマン」。
国内はもちろん海外の愛好家からも絶大な信頼を獲得する同店では、
パテックフィリップ以外にも選り抜かれたアンティークウォッチが揃っている。

構成・文◎船平卓馬（編集部）／写真◎笠井 修

初期型防水スナップバック ケース採用の2機種

OMEGA

オメガ

右は1930年代ならではの初期型防水スナップバックケースモデル。エッジの効いたケースラインを維持し、美しい光沢感が魅力のブラックミラーダイヤルにゴールドレターのミニッツマーカ、インデックス、ゴールドカラーのモダンな針がアクセントを加えている。

■SS（30.5mm径）、手巻き（Cal.23.8SC）、1930年代製、46万9000円

右も1930年代製の初期型防水スナップバックモデル。裏フタがミドルケースより大きく、きつく閉まることで、気密性と防水性を確保する。味のあるフォントのセンターセコンドダイヤルも魅力的だ。

■SS（30.5mm径）、手巻き（Cal.23.8SC）、1930年代製、41万8000円

稀少な角形防水モデルと
初心者にもオススメな
スモセコモモデル

JAEGER
LECOULTRE

ジャガー・ルクルト

右は1940年代製の角形防水モデル。クロノグラフ防水ケースと防水性能が優れる薄型を備えた初級型の角形防水ケースは、流水量が少なく、稀少性が高まっている。
■(右) SS (31×23mmサイズ)、手巻き (Cal.11) - 1940年代製、6万4000円

右は1940年代製のブラックダイヤル採用のスマールセコモデル。光沢を備えたブラックの文字盤にアラビア数字、針の軽年変化した夜光が程よい個性を加えている。
■(左) SS (27mm径)、手巻き (Cal.408) - 1940年代製、3万7400円

有名無名を問わず確かな目で
品質の良い時計だけを厳選

国内外のアンティークウォッチブームから絶大な信頼を集めている東京・銀座の名店シェルマン。店内には運び抜かれた上質な時計がショーケースにずらりと並んでいるが、なかでも同店が得意としており、その代名詞となっているのがパテックフィリップのクロレクシオンだ。

長年にわたってパテックフィリップを取り扱ってきた確かな審美眼とネットワークにより、100万円で手に入る入門向けのエントリーモデルから、愛好家垂涎のトロピカルやジルベルアルペール、さらには一点ものも多いミニッツトリビュートの懐中時計まで、おもしろいパテックに関しては、まさに国内屈指の品揃えを誇っている。

時計界の最高峰であるパテックフィリップの名店と聞くとなんか敷居が高い印象だが、もちろん、オールドパテック以外にも充実したラインナップを揃えており、オメガ、ロジン、IWCといった定番ブランドから、ジャガー・ルクルト、ヴァシエロン・コンスタンタンなど名門ブランド、さらにはアルビナ、エベル、マーティナといった中ブランドのクロノグラフまで、ブランドにこだわらずに上質なアンティークウォッチを展開。さらに近年は、10万円前後のモデルに関してもコンディションの良い個体をセレクトしており、目の肥えた愛好家から初心者まで、幅広いアンティークファンに対応している。名店が確かな目で厳選した時計は、必ずや確かな満足感を味わせてくれるはずだ。

1930～40年代に
製造された
手巻きクロノの秀作

CHRONOGRAPH

クロノグラフ

右奥の1940年代製のレマニア136Hを搭載したアルビナのクロノグラフ。5年保証の、シンプルながら一糸不乱の目を引くモバード、グイナナ175を搭載したエベル。1930年代製のエベールの40ミリサイズクロノグラフ、サーティオンのエクセルシオバーク4搭載機など、手巻きクロノグラフの傑作を厳選。いずれのモデルも軽年変化した文字盤が、グインテージらしい雰囲気を放っている。

■(右奥から) アルビナ。手巻き (Cal.136H)、63万8000円。モバード。手巻き (Cal.90M)、101万2000円。エベル。手巻き (Cal.175)、96万8000円。(手前右から) エベール。手巻き (Cal.1600)、110万円。サーティオン。手巻き (Cal.4)、63万8000円。

VACHERON & CONSTANTIN



ジャガール・ルクルトの手巻キム・ワグナンと名匠によって作られたスモールセコンドタイプのCal.45B/3Bを搭載する。17石で毎時178000振動

1950年代製

視線を釘付けにすること間違いなし
超デコラティブなヴァシュロン

最初に取り上げたこのモデル、何とヴァシュロン・コンスタンタンである。筆者自身も今回初めて目にしたこともあるが、この個性的すぎるスタイルにはかなり驚いた。モデル名は“ヘルム”。調べたところヴァシュロンの文献にも、確かには1950年にリリースされたものとしてしっかり載っている。当時のヴァシュロン自体、数あるブランドのなかでもデコラティブな印象が強いが、それにしてもひと際異彩を放っていると言えるだろう。この“ヘルム”とは船の舵を意味している。つまり船の操舵に使うハンドル（ステアリングホイール）、日本で言うところの“舵輪（だりん）”を模したデザインというわけだ。それにしてもよく見るとかなり作りも手が込んでいるのがわかる。しかもこの個体、オリジナル本来のケースのエッジがしっかり残っているため、恐らくほとんど使用されてなかったのではないかと思われるぐらいにケースコンディションもすこぶる良い。また、当時のヴァシュロンでビントクゾード素材というものが大変珍しく、コンディションや素材ともに貴重な1本と言えそうだ。

■118PG (32mm径)、手巻キム (Cal.45B/3B)、390万円/希少なヴァン



舵輪のグリップ部分とホイール部分、そしてケースと三つのパーツから作られており、ケースに一体成型で美しい丸みを感じることが出来る



ケースの彫刻に合わせてセレクトされたアンティークの14金製陳列（社外品）。その造形もかなり凝った作りである

名

機

アンティークウオッチには、同じモノがひとつとつてないという
オンリーワンの楽しみがある。
手作りゆえの技術的こだわりや工夫、
そこに隠れているストーリーなど……。
その時代を反映した希少な逸品をお届けしよう。

礼

写真◎笠井 修
文◎菊池吉正（編集部）

讚